

青年委員会だより

令和6年4月1日（第264号）

青森県建築士会青森支部青年委員会

新年度になりました。1年はあっという間ですね…。早速花粉症に悩まされている今日この頃です。歓送迎会シーズンですが、体調には十分に気を付け、新たな気持ちでスタートを切りましょう！

令和5年度全国青年委員長会議



青山室長による講話の様子



意見交換会の様子



山本委員長による講演の様子

令和5年度全国青年委員長会議

3月16日、17日の2日間にわたり、令和5年度の全国青年委員長会議が開催されました。例年は東京を会場に行われる会議ですが、今年は初の地方開催となり、会場は宮城県仙台市でした。仙台市は学生時代を過ごし、出張や講習会等で良く訪れる第二の故郷のような場所だったため、行きの移動は気持ち的に余裕がありました。

今年度のテーマは、『備える』～災害を知り、復興を感じ、出来る事を考える。～でした。1日目は「未曾有の災害に備える」ことに備えるための知識をもち、我々建築士が出来る備えとは具体的に何なのか、事前準備、事後対応等について建築士として何が出来るのかをしっかりと考える場として、復興まちづくりの成功モデルと言われる女川町を見学し、災害の規模を自らの目で見て知ること、復興の状況を肌で感じること、そしてより一層深い理解を得ることを目的に開催されました。また、「復興は本当に完了しているのか、本当の意味での復興とは何なのか、我々が考える復興の完了とは」について考える場でもあり、女川町総務課公民連携室青山室長の「復興まちづくり(駅前商業エリア)具体的な取り組み」と題した講話で、「復興とはその道りを通じて、地方の新しい価値や可能性を生み出すこと」という考えを聞き、感銘を受けました。その後、青山室長の説明を聞きながらまち歩きを行い女川町の見学が終了、仙台に戻ってからは席をくじ引きで決めるルールのもと、意見交換会が開催され、編集長松野の他は栃木・福井・鹿児島と上手い具合に地域がばらけた席となり、サイコロの出た目によるテーマをそれぞれが発表することで、話題に詰まること無く、交流を深めました。

2日目は「木造・木質化」をキーワードとして、同年代で先導的に活躍している方の事例や技術を学び刺激を受け、綱領にある「われわれ建築士は社会の発展のため最新の先導者たるべし」に寄与出来る時間と題し、せんだいメディアテークを会場に、はりゅうウッドスタジオの滑田氏、艸建築工房の横島氏、連合会青年委員長の山本氏による講演がありました。中でも山本委員長の事例紹介となった長門市本庁舎は、2019年に構造見学会に訪れた場所だったため、同年代の方がこのような大きなプロジェクトに係わっていることを知り、刺激を受けました。

前回参加の7年前は2日間会議室に缶詰状態で、ワークショップに時間制限がありバタバタしたりと、刺激を受けたものの、とにかく疲れあまり楽しくなかった印象でしたが、今回は楽しかった印象で終わることが出来ました。

令和5年度は、県青年委員長として東北ブロック各県青年大会への出席や全国大会、そして今回参加した全国青年委員長会議等、忙しさの中にも楽しさや刺激を受けることが出来た1年になったと思います。支部の方では、新年度早々ですが、今年も合浦公園春祭りに参加することになりました。合浦公園春祭りは4月28日（日）に開催しますので、下記の予定で定例会を行います。参加可能な方は事務局までご連絡下さい。よろしくお願い致します。

青年委員会新年度定例会 4月12日（金）第2金曜日 18:30～

FAX017-723-7105 mail info@aaba.gr.jp のいずれかでご連絡ください。

アウガ（出席 ・ 欠席）
どちらかに○をつけて返信ください

氏名

TEL